

労働相談室だより

働く者の相談室ひろしま

〒732-0057 広島市東区二葉の里 1-3-16 吉村ビル 3 階

☎ 082-262-3751 Eメール roso34@ybb.ne.jp

ホームページ <http://www.geocities.jp/rosahi>

「ワーキングプア」の逆襲 派遣法抜本改正に向けて 関根秀一郎講演会開く

7 月 18 日、中区のカレントコスモで、派遣ユニオン書記長である関根秀一郎さんの講演会が開催された。広島の地における労働運動再生のひとつの試み。昨年 12 月の安田浩一さん講演会に引き続き構成団体による集会であり、さらなる発展が望まれる。

講演会は 18 時から開場したが、90 席用意した会場がまたたく間に一杯となった。

はじめに、全港湾川田さんから開会のあいさつがあった。労働者派遣法がどのような歴史経過から作られてきたのか、どのように規制緩和され、現在のようになったかの無権利状態が形作られてきたのかが明らかにされた。その上で、労働運動に携わっている者の責任として、現状を打破するための行動が訴えられた。

関根さんの講演は、日雇い派遣の実態を知るために自ら派遣登録をし、実際に労働しての報告は迫真力があつた。早朝駅に集合するところから帰宅するまでの拘束時間で賃金計算すると、時給あたり最低賃金にも満たない水準であつた。さらに、あの悪名高き「業務管理費」と銘打ったピンハネの構造を肌身で知ることになった。この体験をもとに、2006 年 10 月、フルキャストユニオンが結成された。団交の席上、フルキャストの役員は、小さい白旗を用意してきて「私たちの立場はこれです」と述べた。自分たちのやっていることが法律的に通らないことを認識していたのであろう。

だが、この時のやりとりで感動的であつたのは、フルキャストが何千万円かの金で闘争収拾を打診してきたとき、派遣労働者たちが「自分たちのためだけに闘っているわけではないですから」といって拒否したことであつた。ここには疑いもなく、労働者の魂がある。結果、フルキャストで偽派遣労働者の労働条件に関する協定書が締結された。この協定書は、派遣労働者の権利を守るひとつの基準を形成するものとなっている。

フルキャストで開かれた突破口が、次のグッドウィルユニオンの結成、グッドウィルの廃業にまでつながっていくのである。

関根さんは、日雇い派遣の実態をまとめて、以下の 5 点に集約された。

- ① 4 割以上のピンハネによる低賃金
- ② 明日の仕事があるのかどうかわからない不安定雇用
- ③ 現場における労災の多発
- ④ さまざまな名目による不当な天引き
- ⑤ 集合時間からの賃金がまったく払われていない賃金の未払い

実際には、手数料名目で会社に渡っていた金があるのだから、さらに収奪されていたことは間違いない。

さらに、与党 P T 「日雇い派遣禁止案」に関する派遣ユニオンの見解が明らかにされた。

- * 専門業務以外の日雇い派遣禁止 登録型派遣を禁止し、常用型派遣を原則とする制度への転換をはかるべき。
- * マージンの開示を義務化 個別契約の派遣料金とマージンを開示すべきまたマージン率の上限を定めるべき。
- * 専ら派遣の規制強化
- * 派遣労働者の権利保護 「みなし雇用」「均等待遇」など、派遣労働者の権利保護を定めるべき

の 4 項目を掲げている。こうした内容を実体化することによって、少なくとも現在派遣労働者が置かれている悲惨な状況を打破することができる。



解決しました

●中国人実習生への残業代不払い問題 各 200 万円・150 万円支払いで決着

最近の相談で特徴的な外国人研修生・実習生問題がまた起きた。三次のアパレル関連K企業で、10名の中国人実習生に対する残業代不払いが発覚した。

7月11日に相談が寄せられ、7月21日に解決・帰国となった。これは、二年次実習生4名に対する期間途中解雇から、一年次実習生6名も同調して会社から逃げ出し、相談に駆け込んだことから取り組みが始まったものだが、それぞれ各人に200万円と150万円の残業代を支払わせ、たちまちは解決した。引き続き、業界団体との労働協約締結に向けて交渉継続中だ。

「先進技術の研修・実習」を名目に日陰産業の延命策として導入された制度だが、実態は「現代のドレイ制」とも言うべきもので、直ちに廃止されなければならないが、そのためには社会的問題として大きくクローズアップしていくことが最大の課題だ。

パワハラをテーマに 学習会開く

テーマは「パワハラ―職場でのイジメの実態と対処について」で、チューターは土屋さん。約1時間半の学習会には11名が参加した。

まずパワハラの定義を「一般的に、上司がその職務上の地位、権限（パワー）を濫用して、部下の人格権を損ねるもので、職場内の人格権侵害の一類型として捉えられる」と把握し、続いて最近の相談事例からいくつかのケースについて学習を深めた。

気に食わない部下を退職に追い込むため、些細な理由で、陰湿な、時として暴力を伴うイジメを繰り返す。その結果が多くの場合「うつ」を発症させられ、就業はおろか生活もままならない状況に追い込まれ、最悪の場合、自死につながる。

対処としては、隠れて行われるイジメの言動には、克明なメモが決定打となる。同僚も証言しにくい状況があり、保身のため上司側につくこともしばしばある。セクハラに関しては、3ヶ月程度のメモがあれば、裁判で決め手となることなど、有意義な学習であった。

次回は11月に開催の予定。



労働寸評

派遣法改正論議が煮詰まってきた。政府は今度の臨時国会に法案を提出する予定だ。

労使の対立は四つの争点として表れている。日雇い派遣の契約期間、登録型派遣の制限職種、グループ内派遣の規制範囲、違反した場合の制裁、の四点だが、これでも不十分な内容だ。

そもそもこの派遣法の導入と無制限の拡大は、95年に打ち出された「新時代の日本的経営」戦略に基づいて、労働政策を全面的に改悪したことに起因する。その結果こそが「ロストゼネレーション」であり「格差」とすりかえられた今日の貧困問題を生み出した。労働基準法の先取り改悪でもあった。正社員には過酷な長時間過密労働を強い、名ばかりの「管理者」で残業代をピンハネし、他方で派遣をはじめとする非正規社員には生活保護以下の低賃金でこき使い、企業はボロ儲けする構造、非人間的労働政策こそ諸悪の根源だ。

非正規労働者の決起は、小泉構造改革のウソを満天下に示す。選挙対策から政府・独占資本は若干の譲歩でしのごうとしている。これを許さず、声を大に派遣法の廃止こそが求められている。

開催します

パート・アルバイト・派遣労働 110 番

<電話および面接による無料相談>

と き 9月27日(土)・28日(日)

10時～18時

と ころ <広島>労働相談ひろしま(共同事務所)

<福山>福山ユニオン・たんぽぽ

受付電話 <広島>082-264-2310 262-3751

<福山>084-954-0798

主 催 スクラムユニオン・ひろしま、福山ユニオン・たんぽぽ、働く者の相談室ひろしま(3者共催)

活動日誌(08年1月～)

1月	28日(月)	▽学習会⑩「労働契約法の問題点と今後の取り組み」
2月	22・23日	▽「パート・アルバイト・派遣労働トラブル110番」(広島&福山)
4月	13日(日)	▽スクラムユニオン・ひろしま第7回定期大会
5月	14日(水)	▽第7回総会(東区地域福祉センター)
	27日(火)	▽「労働相談室だより」第14号発行
7月	18日(金)	▽関根秀一郎講演会(カレントコスモ)
	28日(月)	▽学習会⑪「職場でのいじめの実態と対処」

*運営委員会の開催 2/12、3/12、4/14、5/19、6/9、7/7、8/11